
sad love

hi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

s a d l o v e

【NZコード】

N5373C

【作者名】

h_i

【あらすじ】

篠崎辰樹「シノザキタツキ」はTV局のAD。仕事が忙しく恋人の小笠悠香「ゴザサユウカ」と一緒にいられる時間が少なかった。そんなとき悠香に異変が…！？

0：プロローグ（前書き）

新小説です。もう一方と平行でやっていきます。

0：プロローグ

なんで僕は気が付いてあげられなかつたんだらう

君はとても寂しかつたはずなのに

なんで君だつたんだらう

でも君が選ばれなかつたら僕はあの時もまだつたのかな

君を悲しませたままだつたのかな

君にはいろいろ迷惑かけて

僕は愛の大切さをいろんなにも覚えたんだ

でも君を愛すことが出来たから

愛していなかつたら君も僕もこんな想いしなくて済んだだろ(ヒ)

なんで僕は君を愛してしまったんだろう

心配をさせて悲しませて

出来の悪い彼氏だったね

君の気持ち何一つわかつてなくて

君は僕のこと考えてくれたのに

僕は君のためになるようなこと

何一つやってあげられなかつた

君の異変にも気付いてあげられなくて

こんな形にならなきや気付くことができなかつたなんてさ

完全に彼氏失格だよね

君が僕の側にいるのは当たり前だとばかり思っていた

「 こつまでも僕の隣にいるのだと思つてた

でも離れていつてしまった

いつかせりへなるのかもしけない

でも・・・・・・・・・

早すぎだよ

もつちよつと遅くても

結婚して家庭築いてからでもよかつたんじゃないかな

でも出来ればいなくなつてほしくなかつた

まだプロポーズしないよ

結婚しないよ

家庭築いてないよ

君以外を愛せと言われても無理なんだ

君が好きだった

今でも好きだよ

僕は今君にとても

謝りたい

喋りたい

会いたい

0：プロローグ（後書き）

なおしたまつがいいところなど教えていただけたら嬉しいです。

1：出金（前書き）

お久し振りです。

1・出会い

俺、篠崎辰樹はTVの局のA.D。（あ、知ってる？）

俺には恋人がいて・・・

それがめいけや可愛いんだ！

マジ俺の血縁の彼女！
ちなみに前は小笠悠香。

名前まで可愛いーーー！

俺と悠香が出会ったのは・・・

俺が仕事帰りに近所のB A Rに立ち寄ったとき

カウンター席にいた俺は少し離れたカウンター席で泣いてる人を見つけた . . それが悠香だった。

俺はなるべく関わらないように

カウンターの端のほうに座つてた

でもなんか気になつて

声を掛けてみたんだ

「あの . . どうかなさつたんですか？？」

そう聞いたら

悠香はびっくりした顔で二つちを見た

でもすぐ下を向いて

「大丈夫です」

と言つてそのまま黙りこくつてしまつた

俺はその時
「ですか」
しか言えなくて

流石にヤバいと思つて

「うーんして出会つたのも何かの縁だし連絡先教えてよ」

悠香はまたびっくりした顔でこっちを見た

でも今度は下を向かないで笑顔で

「いいですよ」
つて言ってくれた

その時の悠香の笑顔は眩しくて

とてもさつきまで泣いてた人の笑顔に見えなかつた

その笑顔に俺は一瞬惚れしたんだ

今思つとなんてベタな惚れ方・・・って思えるけど

その時は本気でそこに惚れていた

2・出張 - 悠香 - (前書き)

138日放置だったらしくすこませんでした

2・出会い - 悠香 -

「あー最悪」

私 小笠 悠香

2年間付き合つてた彼氏の
浮気が発覚して
関係を断ち切つてきた

つこわつきフリーになつた女です

ムシャクシャしたんで
近くのBARで飲んでます

流石に飲み過ぎたな
つて思ったときには
既に酔つてて

もう保つのは無理だと思い
私はその場で泣き始めた

「あの・・・どうかしたんですか？？」

突然聞かれてびっくりした

聞いてきたのは
知らない男の人で

話したい気分じゃなかつた私は

「大丈夫です」

つてそつけなく答えてしまつた

でも

この人は何もやってないんだから
ハつ当たりしちゃいけない

つて思つて話しかけようとしたとき

「知り合つたのも何かの縁だし連絡先教えてよ」

この人は凄い

唐突なことを言つた

つて思つた

いきなり連絡先を聞かれるなんて
思つてなかつたから
凄い驚いたけど

この人ならいいかな
つて思えたから

「いいですよ」

つて答えた

そしたら

凄く嬉しそうな顔をしたから

なんかこいつらまで嬉しくなつて
笑っちゃつたー

それと同時に
もつとあなたのことを見
知りたいなつて思つたんだよ

これが

私と辰樹の出会い

もしかしたら

私たちが出会つたのは

運命なのかもね

告白は辰樹からしてくれて

そのときは

ものすごく嬉しくて

出会えてよかったです
心から思った

もちろん今もだけど//

それが2カ月前の話

この2カ月で

いろんなことがあったけど

それはまた別の機会に^__^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5373c/>

sad love

2010年10月9日23時09分発行